

諮詢のポイント：詳細版

初等中等教育における 教育課程の基準等の 在り方について

(令和6年12月25日中央教育審議会諮詢)



目次



学習指導要領はどのようにして改訂されるのか

- 学習指導要領の改訂へ向けた議論が開始 p.3



検討においてどのような前提があるか

- 子供たちを取り巻くこれからの社会、子供たちにとって重要なこと p.5
- 現行の学習指導要領が目指していること p.6
- 質の高い教師の努力と熱意に支えられ生まれた成果 p.7
- 子供一人ひとりに目を向けた時に見えてきた課題 p.8
- 学習指導要領の改訂へ向けた議論をするにあたって p.9



どのような論点について検討するのか

- 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 p.11
- 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方 p.12
- 各教科等やその目標・内容の在り方 p.13
- 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、
学習指導要領の趣旨の着実な実現の方策 p.14



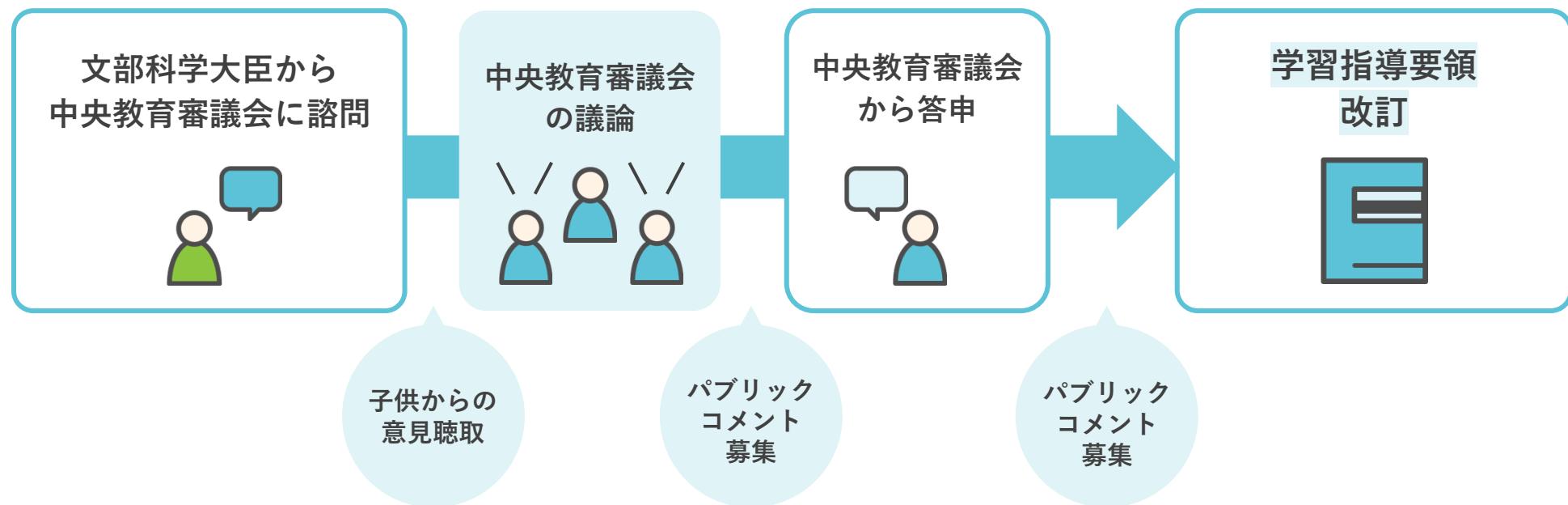
学習指導要領はどのようにして改訂されるのか

学習指導要領の改訂へ向けた議論が開始

令和6(2024)年12月25日の中央教育審議会諮問を受け、学習指導要領の改訂に向けた議論が始まりました。

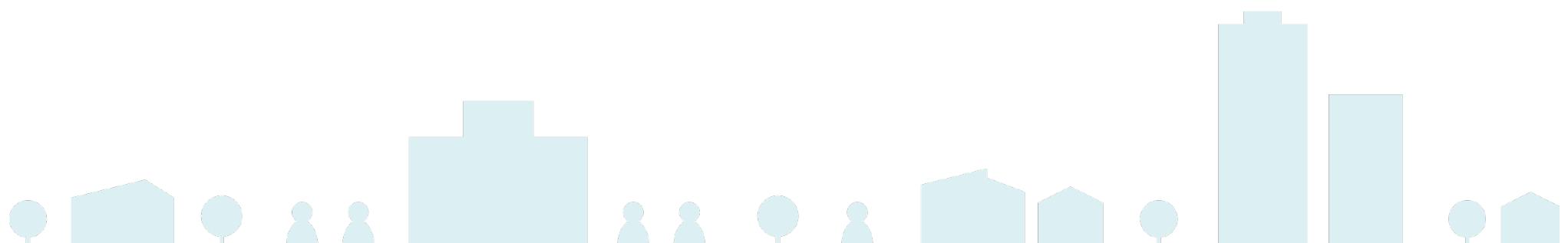
改訂は約10年ごとに実施され、中央教育審議会での有識者等による議論や、パブリックコメントで一般の方からの意見募集を経て行われます。

学習指導要領改訂の大まかな流れ



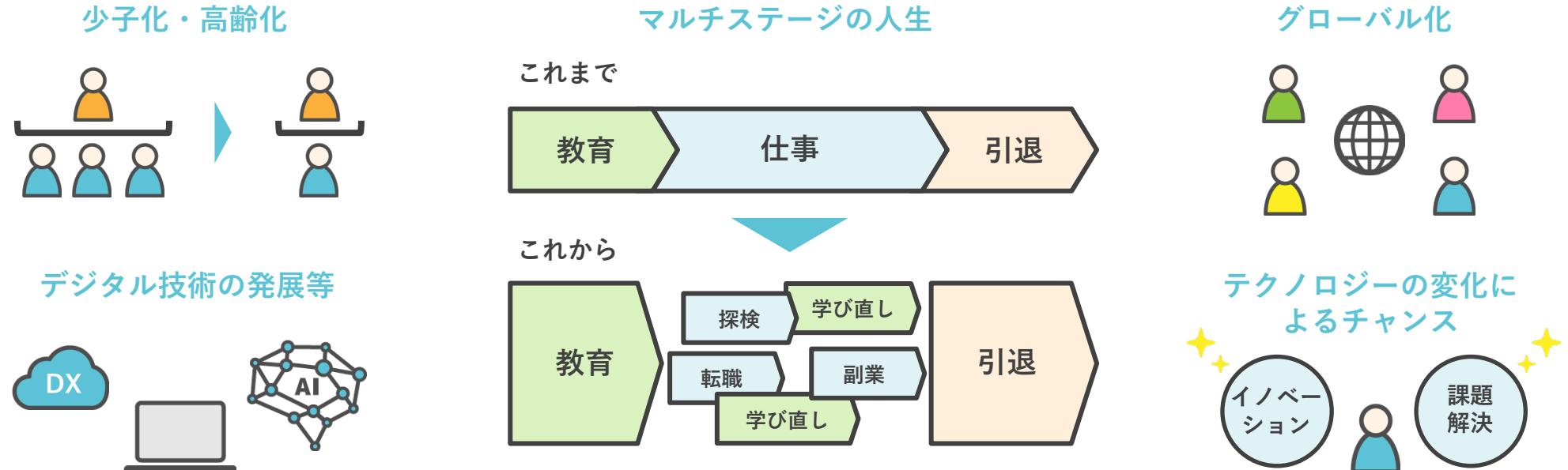


検討においてどのような前提があるか



子どもたちを取り巻くこれからの社会

少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっており、子どもたちは激しい変化が止まることのない時代を生きることになる。



子どもたちにとって重要なこと

自らの人生を舵取りする力を
身につけること



持続可能な社会の創り手となること



豊かな可能性を開花できること



現行の学習指導要領が目指していること

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実



よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現



各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語
教育の教科化

高校の新科目
「公共」の新設

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す



どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブラーニング」）の視点からの学習過程の改善



新しい時代に求められる資質・能力の育成を図るために
学習過程の質的改善

質の高い教師の努力と熱意に支えられ生まれた成果

精力的な授業改善



全国の学校は、コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精力的な授業改善を行ってきた。

学習指導要領の趣旨・内容の実現に取り組んだことによる変容
「教員の授業改善の意識向上」^{*1}

小学校	中学校
88.6%	86.6%

現行学習指導要領における効果的だった改善事項^{*2}
約9割が「大変効果的だった」または「まあ効果的だった」と回答



主体的・対話的で深い学びの視点を示したこと



目標・内容を資質・能力の三つの柱で整理したこと

資質・能力の育成、授業改善の取組の実現状況^{*3}
約9割が「十分実現できている」または「どちらかといえば実現できている」と回答



基礎的・基本的な知識及び技能の習得



ICTを活用した授業改善等

地域間格差・学力格差の改善



全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている。

全国学力・学習状況調査^{*4}(国語の場合)

全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない

小学校

平均正答率
68%

最高平均正答率
73%
(+5%)

最低平均正答率
64%
(-4%)

中学校

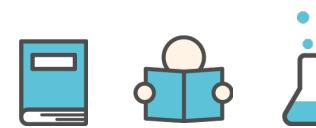
平均正答率
58%

最高平均正答率
62%
(+4%)

最低平均正答率
53%
(-5%)

OECD生徒の学習到達度調査(PISA)の結果^{*5}

読解力、科学的リテラシーにおいて低得点層(習熟度レベル1以下)の割合が有意に減少



数学的リテラシー、科学的リテラシーにおいて高得点層(習熟度レベル5以上)の割合が有意に増加



*1、2、3 出典：国立教育政策研究所「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査(学校質問)」「令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査(学校質問)」

*4 出典：文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」

*5 出典：文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント」

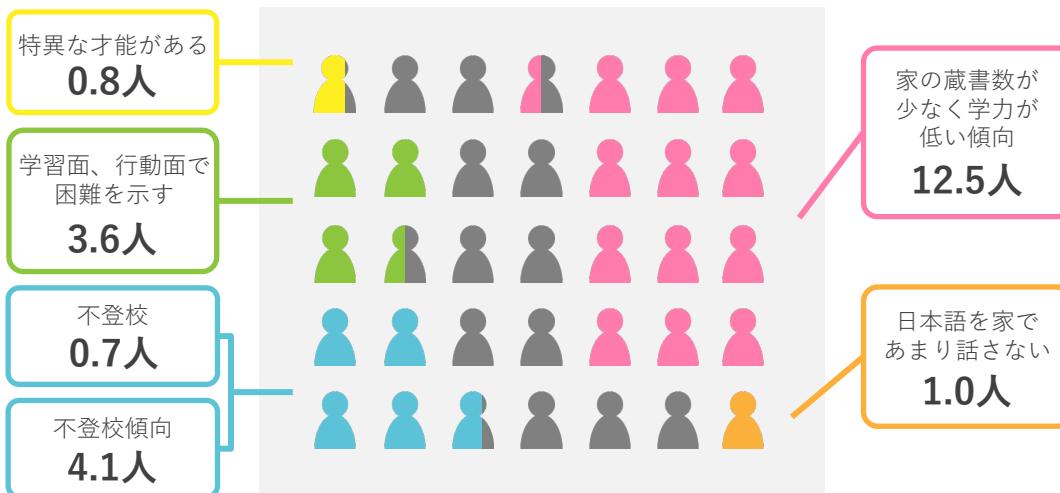
子供一人ひとりに目を向けた時に見えてきた課題

多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の必要性

「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

-小学校35人学級における子供の多様性*-

*各種調査に基づく出現率から算出



学習指導要領の理念や趣旨の浸透が道半ば

子供の社会参画の意識



深い理解を伴う知識の習得



知識と現実の事象を関連付けて理解



自律的に学ぶ自信



将来の夢を持つ子供の割合



「自分の考え」を書くこと



デジタルを活用した効果的な学びについて

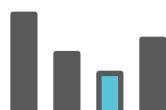
「デジタルか紙か」といった二項対立



効果的な活用はまだこれから



デジタル競争力は国際比較でも低位



バランス感覚を持って、積極的に活用する



一人一人の良さを伸ばし、困難の克服を助ける



デジタルの力でリアルな学びを支える

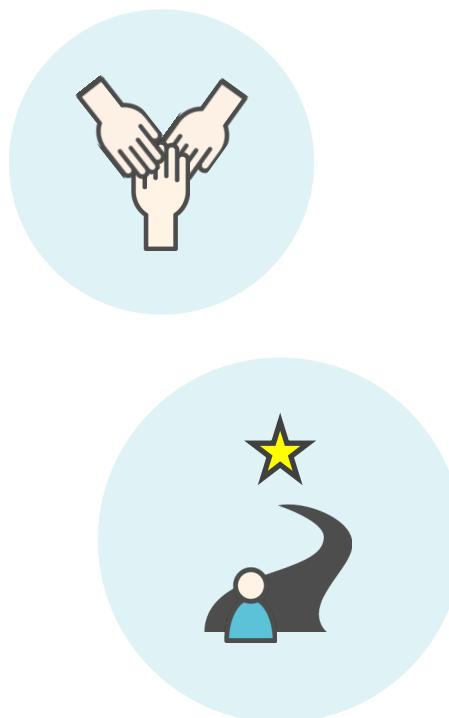


学習指導要領の改訂へ向けた議論をするにあたって

これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配意しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要があります。

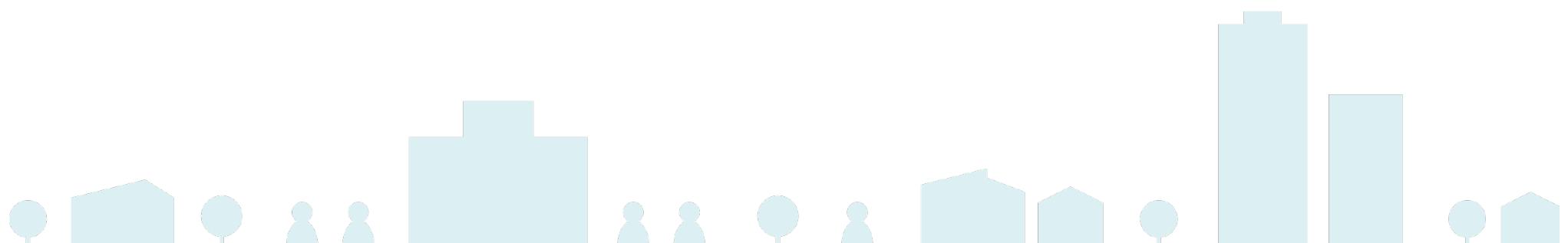
その上で、教師の努力と熱意に対して過度な依存をせず、中央教育審議会答申^{*}に基づく教員の勤務環境整備と整合させつつ、「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展させることが必要です。

* 「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（答申）（中教審第251号）



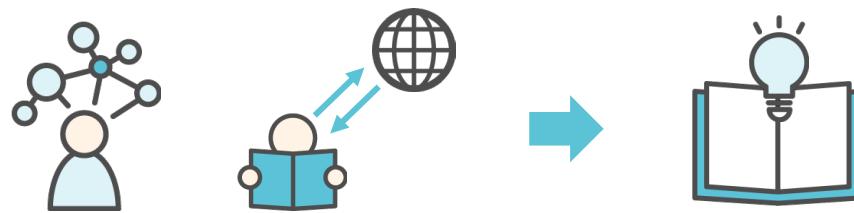


どのような論点について検討するのか



1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

各教科等の中核的な概念を中心とした一層の構造化



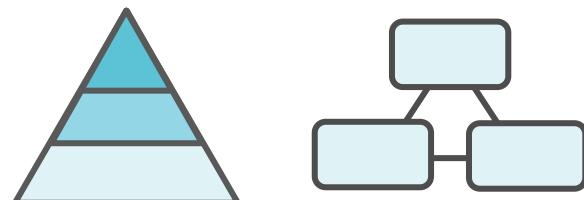
知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりを意識した授業改善に向けて、各教科の目標・内容はどう整理するとよいか

表形式やデジタルを活用した示し方



学習指導要領の目標や内容の記載に表形式等を活用すること、学校種間・教科等間の関係性を俯瞰しやすくすること、デジタル技術を活用し誰もが理解し使いやすくすること等の観点からどのような工夫が考えられるか

重要な理念の関係性の整理のし方



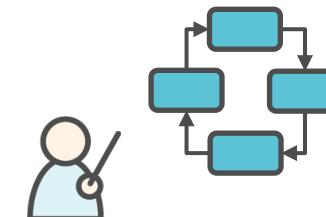
「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」「学習の基盤となる資質・能力」など、重要な理念の関係をどう整理したらよいか

デジタル学習基盤を前提とした資質・能力の示し方



1人1台端末等の活用を前提に、児童生徒の資質・能力をよりよく育成するには、各教科等の目標や内容をどう示すとよいか

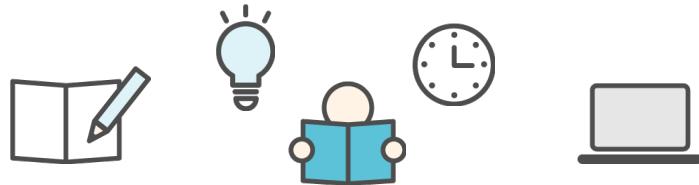
学習評価の在り方



学習評価を児童生徒の学習や教師の授業の改善に役立てるためには、観点や頻度等をどう改善したらよいか

2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

子供による学びの自己調整と 教師の指導性の在り方



子供が自分自身で学びを調整し、教材や学習方法を選択できる学習環境デザインの重要性、新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方をどう考えるか

子供たちが輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方



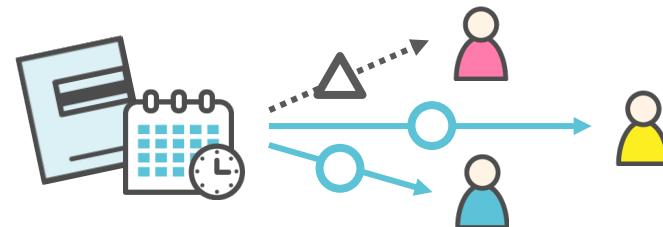
教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含め、子供一人一人の可能性が輝く柔軟な教育課程編成を進めるために、各種特例校制度を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方についてどう考えるか

高等学校の諸制度の改善の在り方



高等学校の生徒の多様性に応える柔軟な教育課程を実現するための全日制・定時制・通信制を含めた諸制度をどう改善したらよいか

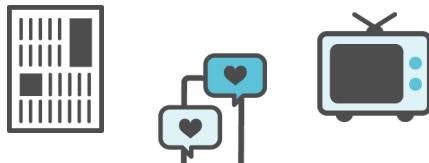
一つの教育課程では対応が難しい 子供を包摂する在り方



不登校児童生徒や特定分野に才能のある児童生徒など、一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂する仕組みを作るために、教育課程上の特例等をどう考えるか

3 各教科等やその目標・内容の在り方

情報活用能力の抜本的向上を図る方策



小中高等学校を通じて、生成AI等に関わる教育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化など情報活用能力を抜本的に向上させるための方法はどのようなものがあるか

主体的に社会参画するための教育の改善の在り方



教育基本法や学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨を踏まえ、子供が主体的に社会参画するための教育の改善をどう考えるか

質の高い探究的な学びの在り方



質の高い探究的な学びを実現するため、「総合的な学習の時間」や「総合的な探求の時間」について、情報活用能力の育成との一体的な充実等を含めどう改善したらよいか

文理横断・文理融合の観点からの改善の在り方



高等教育段階でデジタル・理数分野の改革が進む中、初等中等教育段階での文理横断・文理融合の視点からどう改善したらよいか

生成AIの活用を含む今後の外国語教育の在り方



生成AIの発達により、質の高い翻訳が可能となる中で、生成AIの活用を含めた外国語教育の在り方や、学ぶ意義についてどう考えるか

高等学校教育の今後の在り方



多くの教科・科目の構成の改善が行われた高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善をどう考えるか

質の高い特別支援教育の在り方



特別支援学級や通級指導といった特別の教育課程、自立活動の充実等を含む、障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方をどう考えるか

幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方



幼児教育と小学校教育を円滑に接続するための改善、設置者や施設類型を問わず幼児教育の質を向上させるための共通の方策は何か

4

教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、 学習指導要領の趣旨の着実な実現の方策

教育課程の実施に伴う過度な負担 や負担感が生じにくい在り方



学習指導要領や解説、教科書、入学者選抜の影響、教師用指導書も含め、授業づくりの実態を全体として捉えた上で、教育課程の実施による教師の過度な負担や負担感生じにくくするにはどうしたらよいか

現在以上に増加させない ことを前提とした年間の 標準総授業時数の在り方



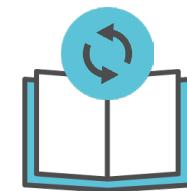
現在以上に増加させないことを前提とした標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意しながら、現代の諸課題に対応した教育の充実の在り方をどう考えるか

教科書の内容や分量、 デジタル教科書 の在り方



新たな学びにふさわしい教科書の適切な分量、デジタル教科書等の活用をどう考えるか

最新の教育内容を扱うこと を可能とするための方策



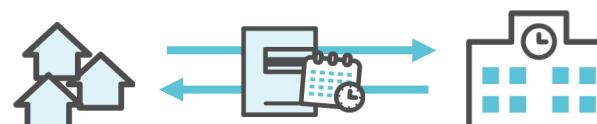
教師の負担軽減を図りつつ、情報技術など変化の激しい分野における最新の教育内容を扱うためにはどうしたらよいか

教育委員会への支援強化、指導主事等 の資質・能力の向上の在り方



各学校の柔軟な教育課程の編成を促進し、多様な取り組みを展開するために、教育DXの推進を含む教育委員会への支援強化や指導主事等の資質・能力向上をどう進めるべきか

地域や家庭との連携・協働を促進 しつつ、カリキュラム・マネジメントを実質化する方策



コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携・協働を促進しつつ、過度な負担が生じないカリキュラム・マネジメントを実現させるにはどうしたらよいか

学習指導要領の趣旨・内容について、 社会全体に浸透を促す方法の在り方



学習指導要領の趣旨や内容を保護者や社会全体にわかりやすく伝え、学校種を超えて一人一人の教師に浸透させるためにはどのような方法があるか



文部科学省ホームページ

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/mext_00003.html